

★マリガヤハウス便り★

★河野 尚子★

皆様、こんにちは。いかがお過ごしですか。今年もマリガヤハウスインターンズ(アイセックインターン)の時期になりました。現在、3人のインターンズがオフィスで活躍中です。

【アイセックインターン受入れ：マリガヤインターンズ紹介】



初めまして、大阪市立大学2年の加波拓真です。現在フィリピンのマリガヤハウスでインターン生としてお世話になっています。今回は研修参加理由について書かせていただきます。私がマリガヤハウスでのインターンに参加したのは2つの理由がありました。1つ目は自分の将来のためです。

私は幼少のころより海外で困っている人のために何かをしたいと考えていました。特に人権に強い興味があり、将来は人権保護のために活動しているNGOで働きたいと考えていました。そこでこの夏6週間という短い期間ながらマリガヤハウスで研修をさせていただくことで、海外で人権に携わるNGOで働くとはどういうことか、身をもって体験させていただこうとの考えに至った次第です。なぜ「人権」に興味があるのか。そこには1つのキーワードがあります。「戦争」です。私は幼少時に戦争自体が持つ悲惨さを知り、さらに中学校でDays Japanという月刊誌を読むうち、今も海外で戦争に苦しんでいる人々に何かしたい、と考えるようになりました。中学以降もその夢を持ち続け、大学に入る際に、人権を制度的に守る専門知識を身につけよう、と考え、法律を学ぶ道を選びました。そしてこの夏、何か法律にも人権にもかかわるような研修に参加し、将来について改めて考えようと思い、またJFCたちは日本国憲法の定める基本的人権が侵害されているのではないかと、彼らのために何ができると考え、マリガヤハウスでお世話になろうと決めました。

上記はあくまで自分のための研修についてですが、8月30日に初めてJFCの子供たちに出会って、今更ながら彼らのためにできることは自分の持てる力すべてでなんでもしようと思いました。現在はワークショップと資金集めをやり遂げようと考えています。残り3週間ほどですが、微力を尽くします。



はじめまして。慶応義塾大学1年生の江頭由花子と申します。現在、私が大学で所属しているアイセックという学生団体を通じてマリガヤハウスでインターンをしております。正直に言うと、3ヶ月前まで私はJFCの存在すら知りませんでした。「日本人」として貢献できるインターンをしたいと思っ様々なNGOを見ていたところこのマリガヤハウスに出会いました。そしてJFCについて調べていくうちに、これこそ「日本人」である私が手助けすべきことだと感じました。様々な資料を読んだり、JFCネットワーク東京本部での事前研修を通じて、JFCに実際に会い彼らの抱える問題、思いに直接触れたいという気持ちがより一層強くなりました。6週間のインターンもすでに折り返し地点にきております。まだまだJFCと関わることができていませ



んがここからは積極的に彼らと交流していきたいと思っています。そして日本人である私ができる最大のサポートをし、微力ながらも JFC の将来に少しでも貢献できればと思っています。



神戸大学経済学部1回生、アイセック委員会所属の、久保陽香です。私がマリガヤハウスに研修に行こうと思った理由は、サークルの先輩やフィリピン人の留学生に JFC 問題の話を聞いた時に、日本人として、そして女性として、非常に怒りを感じ、自ら JFC 問題を解決したいと思ったからです。

今マリガヤハウスでインターンをさせて頂き、自分が研修前に思っていたことと現実とのギャップや、色々な疑問点を感じています。これらのギャップや疑問をその場の感情で終わらせず、課題を見つけ自分達でそれに対してアクションを起こし、JFC 問題に貢献したいと思っています。また自分は今、学校生活ではなく、社会の中で仕事をしているということを意識して、自分の行動に責任持ち、アクションを起こすまではすばやく、そしてアクション起こしてからは慎重に、をモットーに行動していきたいと思っています。

【マリガヤインターンズファンドレイジング活動 :JFCに栄養のある食事を！プロジェクト】
「お金がなければ権利もないの？」

私たち、マリガヤインターンズは現在 JFC ネットワークのフィリピン事務所、マリガヤハウスで6週間のインターンをしており、JFC の日本国籍取得をサポートしております。その中で、国籍取得する上での必要書類をそろえるのにお金がかかるということを知りました。一人当たり、約1万5000円が必要になります。これはフィリピンではお昼ごはん100食分のお金になります。養育費ももらえずシングルマザーが一家を支えている JFC の家庭にとっては大きな出費です。中にはそれを払えないという理由で国籍取得をあきらめてしまう人もいます。JFC は日本人の親のもとに生まれています。となると、日本国籍をもつというのは当然の権利です。その権利を経済的な事情により手放さなければならないというのはおかしい、そう感じた私たちは書類を用意するお金の工面をしてあげたいという思いからファンドレイジングをすることを決意いたしました。



「JFC に栄養ある食事を！～20 日間で1週間分の食事を考案」

子供たちを見ていると年の割に身体がとても小さかったり、逆に肥満であったりすること気がつきます。JFC の母親は若い頃から日本に出稼ぎに行っていて料理を学んでいない、経済的に苦しく毎日生きるのに精一杯で栄養など気遣ってられないといった理由から子供たちは栄養ある食事を十分にとれていません。そこで私たちは JFC に栄養ある食事をとり健康に育ててほしいという思いを込めて以下のチャレンジをします。発育期の子供がと



るべき栄養がよく考えられた日本の給食の献立をもとにフィリピンの食材、フィリピン人好みの味、コストを配慮してJFCの母親に向け、栄養ある料理のメニューを考案します。子供たちがしっかり栄養をとり健康な体になれば治療費をうかすことができ国籍取得の費用に回すことができます。数ヶ月前まではJFCの存在すら知らなかった私たちですが、このインターンでJFCと関わり、彼らを支えたいという思いは人一倍強くなりました。このチャレンジでその誠意を伝えたいと思います。国籍取得申請にかかる費用を用意するのが厳しいJFC10人の費用を工面することを目標にいたします。よって1人15000円×10人=150,000円を集めたいと思っています。

チャレンジの進捗については随時、活動報告欄にてお伝えいたします。是非ご覧ください。

ジャパングビングチャレンジサイト：

<http://japangiving.jp/c/12989#summary>

マリガヤハウスの主な活動

2015年6月

- JFCネットワーク奨学生・ソロプチミスト奨学生・在日フィリピン大使館奨学生合同会議を開催。
- 認知後の国籍申請のため在比日本大使館を訪問。

2015年7月

- JFCネットワーク奨学生・ソロプチミスト奨学生・在日フィリピン大使館奨学生合同会議を開催。
- 認知後の国籍申請のため在比日本大使館を訪問。
- JFCネットワーク東京事務所理事会にスカイプで参加。
- ダバオ在住JFC母子のDANサンプル取得のためダバオへ出張。
- JFCネットワーク主催スタディツアー開始。(7月31日～8月5日)

2015年8月

- JFCネットワーク奨学生・ソロプチミスト奨学生・在日フィリピン大使館奨学生合同会議を開催。
- 認知後の国籍申請のため在比日本大使館を訪問。
- ローカスから依頼されたDNA鑑定実施。
- アイセックインターン受入れ。大阪市立大学 加波拓真さん、慶應義塾大学 江頭由花子さん、神戸大学 久保陽香さん
- 新規クライアント受理前にオリエンテーションを開催。